

運動学分野



平成六年四月、新たに東北大学医学系研究科障害科学専攻が発足した。その中で「病態運動学講座」は唯一の基礎系講座であり、「運動学」と「人間行動学」との二研究・教育分野がある。

「運動学」の研究は、健康の増進、スポーツパフォーマンスの向上と多方面に及んでいる。医学部の障害科学専攻という中であって、健康やパフォーマンスの向上といった研究内容は一見整合性に欠けると考えられるかもしれない。しかし、障害を知るためには障害のない状態を科学する必要がある、さらに、普通人が身体活動や競技の中で障害を有する状態に陥ることを考えると、本研究分野は基礎講座ではあるが、臨床系同様、あるいはそれ以上に重要な研究分野であると自負している。

我が「運動学」は基礎系分野というほかに、もう一点他分野と異なる点がある。それは、本分野の教官全員が、障害科学専攻設立に際し、他部局の保健体育科目を担当していた学科群から移籍したスタッフであり、現在も引き続いて一〇学部に対する全学教育（保健体育科目）を担当しているという点である。したがって、我々は医学部教官でありながらも、川内キャンパスに研究室を置いている。このことは、地理的に医学部と離れていること、他講座とのコミュニケーションがとりにくいなど不便な点も多い反面、われわれの研究対象が主に健常者であり、川内キャンパスの場合、研究・教育のための環境に大変恵まれているという点においてメリットが大きい。

大森浩明教授以下五名のスタッフは、「運動と代謝、疲労」を主なテーマにさまざまな研究成果を出している。研究のキーワードは「運動」、「トレーニング」、「筋活動」、「鍛錬者」、「非鍛錬者」、「脂質代謝」、「糖質代謝」、「内分泌」、「免疫」、「ストレス」など運動・健康科学が本講座の研究の根幹をなすものである。現在のトピックスは、マウスやラットの細胞を用い運動の生体へ及ぼす影響を分子生物学的手法を用いて解析をすすめている。さらに、キネシオロジ、運動パフォーマンスの仕事も行っている。平成六年度は大学院一期生として三名、平成七年度には二期生四名が本研究分野に新たな力をもたらした。中国からの留学生も含めて、彼らの出身学部はそれぞれ異なり、学部が同じであるという院生は一人もいない。従来の医学系研究科からは想像もできないような個性豊かな有能な大学院生達であり、「医学的な見地外も含めた障害科学」という本専攻の設立目的のもとで自由な研究テーマを探求し、障害科学研究者として自己の研鑽を行っている。

われわれの分野はスタートをしたばかりである。そういった意味からも、教官、大学院生双方の今後の研究教育成果が大いに期待されるものである。

（大森浩明 平5入）

東北大学「艮陵同窓会百二十年史」

1998年3月1日発行